

当事者として  
援助者として  
共に生きる者として

危機の共有  
責任の共有  
希望の共有

この言葉は、石隈利紀氏（筑波大学大学院教授 日本学校心理士会会長）が本県に寄せるメッセージとして、「ピュアサポートフォーラム」（平成24年11月）で述べられたものです。

私たちは、震災の当事者としてふくしまで危機を経験し、今もなおその「危機を共有」しています。私たちは、これからも同じふくしまで互いに助け合う援助者として「責任を共有」しています。そして何より、私たちは、これからも同じふくしまで共に生きる者として「希望を共有」しなければなりません。



これまでは、学校は学ぶ場所、社会は働く場所と、いわば分断されていたかもしれません。震災、原発事故を経験した私たちのふくしまでは、まさに危機と責任、そして希望を共有して困難を乗り越える必要があるのです。

危機を共有した子どもたちは、今、夢や希望を広げて歩み出しています。そのたくましさには私たち大人も奮い立つのです。子どもたちの援助者として責任を共有するために、家族、教職員、社会人がつながり合わなければなりません。そして、ふくしまに共に生きる者として、子どもたちへの希望を共有し、その実現のために子どもたちに確かな学力を育てていきたいのです。希望の共有は、子どもたちの未来を照らす光になるはずで

子どもたちの「夢」や「希望」の種を、

家族や教職員、社会人のみなさんの力で

大きく育てていきませんか！

◆ 福島県学力向上改善会議における提言を受け、義務教育課は諸事業を通して以下の取組を推進します。

- ① 家族・教職員・社会人を「つなぐ」働きかけ
- ② 子どもの学びを保障する教育の場づくり
- ③ 各学校における「つなぐ教育」を支えるキャリア教育<sup>(※)</sup>の推進



福島県教育庁義務教育課のホームページにアクセスして、このリーフレットをご活用ください。  
<http://www.gimu.fks.ed.jp/>

※ 一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達（社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程のこと）を促す教育。詳細はこちらをご覧ください。（[http://www.nier.go.jp/04\\_kenkyu\\_annai/div09-shido.html](http://www.nier.go.jp/04_kenkyu_annai/div09-shido.html)）

「福島県学力向上改善会議」は、福島県教育委員会が委嘱した有識者等による会議です。

委員長 小沢 喜仁 福島大学副学長・教授（座長）	会長（郡山市教育委員会教育長）
委員 木村 孝雄 福島県都市教育長協議会代表	会長（磐梯町教育委員会教育長）
委員 齋藤 就治 福島県町村教育長協議会代表	副会長（前・石川町教育委員会教育長）
委員 高原 栄征（前）福島県町村教育長協議会代表	理事長（福島キャノン（株）代表取締役社長）
委員 深澤 秀樹 福島県産業教育振興会	会長
委員 佐藤 辰夫 福島県PTA連合会代表	事務局次長（福島市立三河台小学校長）
委員 佐久間裕晴 福島県小学校長会代表	庶務（福島市立福島第一中学校長）
委員 菅野 善昌 福島県中学校長会代表	
委員 吉田 尚 福島県教育庁義務教育課長	

第1回会議…平成24年5月28日（月）、第2回会議…平成24年9月7日（金）、第3回会議…平成25年2月4日（月）

※ このリーフレットは、上記の3回の会議の内容を踏まえて作成したものです。

平成25年3月

ふくしまの未来を担う子どもたちのために

～「つなぐ教育」で確かな学力を～

……今度は、私達の番です。「人のために尽くしたい」という思いを受けた私達が、人のために動くのです。「復興元年」といわれる今、それは震災を経験し、これからの未来を担う私達の使命ではないでしょうか。「復興」は単に「元の状態に戻す」のではなく、新たな「未来」や「夢」を創り出すことなのだと考えます。そのためにも、もう一度「当たり前の日常」を見直すことが必要なのではないでしょうか。「未来」や「夢」を創り出す種、「真の復興」は「当たり前の日常」の中にあるのです。「日本人の品格」を受け継ぐ者として、もう一度考えてみませんか。今、私達がすべきことを。

南相馬市立原町第二中学校3年 吉田彩乃さん（平成24年度「わたしの主張」優秀賞作品より）

2011年3月11日の東日本大震災。ふくしまの子どもたちは、かつて経験したことがない大きな喪失体験をしました。一方で、人を思いやる心や人との絆の大切さ、ふるさとを愛する心や日本人の道徳心など、多くのことに気付かされました。今、子どもたちは、これまでの自分や社会を振り返り、人の役に立ちたい、科学技術を発展させたい、ふくしまの復興に貢献したいなど、自分の夢をえがき、歩み始めようとしています。

子どもたちが新たな「未来」や「夢」を創り出すためには、先人たちが築き上げてきた知識や技能を身に付けるだけでなく、様々な課題を乗り越えるために必要な思考力、判断力、表現力などを高めていく必要があります。また、震災により甚大な被害を受けた本県では、特に主体的に学ぼうとする意欲や態度を育てていくことが重要です。なぜなら、震災に立ち向かい、震災からの復興を支え、新たなふくしまを創っていくには、学ぶ意義や学ぶ喜びを携え、自分の生きる道を自分で切り開いていくことのできる力が求められるからです。

そこで、義務教育課では有識者等による「福島県学力向上改善会議」を開き、意見をいただいております。以下は、3回にわたる会議を経てまとめられた提言です。

- ① 子どもたちに学び方を身に付けさせる取組を推進すること
- ② 教育の質を保障する校内体制を構築すること
- ③ 人づくりの視点に立ち、家族・教職員・社会人が一体となって子どもたちの学力向上を支える基盤をつくること

義務教育課ではこの提言を受け、具体的な取組に結び付けていくために本県ならではの教育の在り方を「つなぐ教育」として整理しました。「つなぐ教育」とは、子ども自身が、過去から現在、そして未来へと続く自分を見つめながら、自分らしい生き方を実現できるようにするために、家族や教職員、社会の人々の力をつないで教育力を高めていく営みです。

ふくしまの未来を担う子どもたちが、「未来」や「夢」に向かい自分らしい生き方を模索する中で確かな学力を身に付けることができるように、このリーフレットをご活用いただけましたら幸いです。

福島県教育庁義務教育課



福島県学力向上改善会議 小沢喜仁 委員長

(福島大学副学長 (地域連携担当)・共生システム理工学類教授)

いま、ふくしまは復興のまっただ中にあります。ふくしまという自然、文化、産業、そしてその大きな恵みをもたらす豊かな地域を、地域が持つこれまでの課題を解決しながら、よりよい形であり続けるためには、私たちは何をすべきでしょうか。

この過程で不可欠なのは、「教育」「人づくり」「人材育成」であることは誰もがみな認めることとなっています。子どもたちは学校での勉強をもとに、将来のための準備をしています。家族が、教職員が、社会や地域の人々が、そして行政が、子どもたちの学びにどのように関わり、子どもたちが必然的に持ち合わせている「分からないことを分かるようにしたい」という気持ちをどのように支えていったらよいのでしょうか？ 子どもたちの夢や希望はいろいろなことに広がっています。この多様性がこが重要で、ふくしまに住む私たちみんなが力を合わせてこれを育て、つながり、見守っていく必要があります。

## 家族（保護者・祖父母等）

家族がつながって……

子どもが世界で一番安らぐ場を与えましょう！



### 子どもを社会につなぐ

- ・互いにあいさつをしましょう。
- ・子どもの話を聞きましょう。
- ・子どものがんばりを認め、励ましましょう。
- ・子どもに家事をさせましょう。
- ・子どもの「なぜ？」に付き合ひましょう。
- ・子どもが自分で計画を立てて勉強できるように見守りましょう。



### 知的好奇心を学びにつなぐ

### 自信を自律心につなぐ

## ★子どもたちに育みたい思い★

- ・私も～のようにになりたい。【あこがれ】
- ・あきらめない、くじけない。【やり抜く意思】
- ・何事にもチャレンジするぞ。【挑戦する心】
- ・なぜ？ どうして？ もっと知りたい。【知的的好奇心】
- ・みんなで一緒に考えたい。【共に考える喜び】
- ・こうするともっとよくなるぞ。【独創性】

## 夢の実現

大学・社会人  
高等学校

## 確かな学力

先人たちが築き上げてきた知識や技能を！  
様々な課題を解決していく知恵を！  
学びの原動力となる意欲や態度を！

# つなぐ教育で、

# 確かな学力を！



## 社会人（職業人・地域の方）

社会の人たちがつながって……

子どもたちに働く意義や喜び、郷土のよさを伝えていきましょう！

### 子どもと社会をつなぐ

### 働くことと子どもの夢をつなぐ

- ・子どもたちに自分の夢を語りましょう。
- ・子どもたちに仕事の話しましょう。
- ・子どもたちに働いている姿を見せましょう。
- ・子どもたちに仕事をさせてみましょう。
- ・子どもたちに郷土のよさを語りましょう。

### 子どもと郷土をつなぐ

### 子どもと生き方をつなぐ



福島県学力向上改善会議

佐藤辰夫 委員

(福島県PTA連合会会長)

子どもにとって家庭は最も身近にある社会です。家族とのふれ合いを通して、基本的な生活習慣や生活能力、他人に対する思いやりや自己肯定感などを育てる場所であり、常に子どもたちのよりどころとなることです。また、子どもの成長には家庭・学校・地域のより密接な融合と連携が必要であり、それぞれが教育機能を高める一翼を担う活動を行うことが求められます。そのためには挨拶をきちんとする、朝ご飯と一緒に食べる、学校での出来事を聞くなど、保護者が、子どもに積極的に関わるとともに、ルールやマナーを守る模範を示すことが大切です。

家庭はすべての教育の出発点です。

「家で、自分で計画を立てて勉強している」福島県の子どもの割合は、全国よりやや少ない傾向にあります。家庭では、社会のルールやマナーをしっかりと教えるとともに、子どもの話を聞いて子どもを認め、励ますことを大切にしましょう。子どもの自信は、自分から取り組む積極性と自ら計画を立てるなどの自律心につながります。

子どもと教師、教師と教師がつながって……

中学校  
小学校

## 教職員（学校関係者）

子どもの「夢」や「希望」の実現を支えましょう！

### 子どもと教材をつなぐ

### 子どもと子どもをつなぐ

- ・共に生活する楽しさ、学び合う楽しさを感じさせましょう。
- ・子どもの言葉、しぐさ、表情をよく見取って、内面をとらえましょう。
- ・子ども自らが考えたいこと、学びたいことを見いだすようにしましょう。
- ・子どもの学びの履歴を熟知し、子どもの成長を信じましょう。
- ・切磋琢磨しながらも仲がよい、笑顔あふれる教師集団を創りましょう。
- ・近隣の学校や他の機関と共に行う教育活動を展開しましょう。



### 学校と学校をつなぐ

### 学びと学びをつなぐ

福島県学力向上改善会議

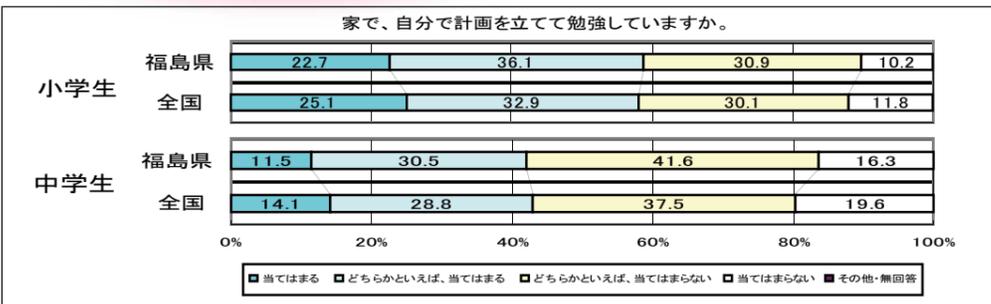
深澤秀樹 委員

(福島県産業教育振興会理事長)

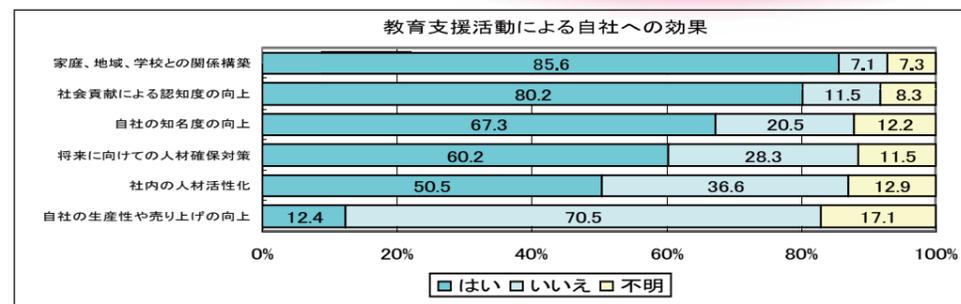
／福島キャノン(株)代表取締役社長

我々企業が最大の社会貢献は、地域からの雇用です。だから我々も、子どもたちに「将来はこんな人になりたい、こんな仕事がかしたい」という夢を持って欲しいのです。企業は“企業が持っている夢”を地域にどんどん発信していくべきです。企業が、今、そして未来に必要なとしている人材は、我々と夢を共有して、自ら考え、自ら動き、“生きる知恵”を生み出せる人です。子どもたちに、我々の夢を語りましょう。それが子どもたちの夢につながっていきます。子どもたちのその夢を通して、家族や教職員、地域のみなさんでつながる社会を創っていきませんか。企業からの“夢の発信”は、子どもの将来につながる一歩なのです。

仕事の「プロ」である方の生き方や考え方、職業についての話を聞く機会を得ることは、子どもたちにとって大きな財産となります。また、下のグラフのように子どもたちへの積極的な働きかけは、企業等にとっても、「家庭、地域、学校との関係構築」などの効果が指摘されています。地域の子どもたちに語ってみませんか。みなさんの仕事のすばらしさや苦労を……。



平成24年度全国学力・学習状況調査結果



企業による教育支援活動に関する調査結果 (東京商工会議所) 調査時期 平成22年6月